

## 令和 3 年度「Kii-Plus 関西広域連合政策形成プロジェクト」実施報告書

活動テーマ		Kii-Plus 関西広域連合政策形成プロジェクト	
キャッチ（タイトル）		コミュニティバスの高付加価値化	
活動グループ	氏 名	所属・学年	
	（グループ代表） 飛詰 峻	システム工学部 研究科	4 年
	（グループメンバー） 高松 智哉	経済学部 研究科	4 年
	佐藤 寛子	経済学部 研究科	4 年
	永田 理紗	観光学部 研究科	4 年
	戸高 英里子	観光学部 研究科	4 年
		学部 研究科	年
協力教員	氏 名	学 部	職 名
	西川 一弘	紀伊半島価値共創基幹 価値共創オフィス	准教授
	木村 亮介	クロスカル教育機構 教養・協働教育部門	講師
グループ名（※1）		ドリームバスプロジェクト	
グループの公式 SNS／HP など URL（※1）			
政策の概要		<p>本取組は、「交通空白地帯の解消」「公共交通の確保」という公益的な観点から、自治体からの補助金により運行費用の赤字補填が行われることが多いコミュニティバスに関して、地域の観光資源を結ぶ「観光体験型コミュニティバス」とすることで、魅力あるバス事業とし、地域内外におけるコミュニティバス利用者の潜在需要を掘り起こすことを目的とし、新たな付加価値を提供するコミュニティバスの仕組みづくりを政策化するものである。</p>	

## 調査内容

「観光体験型コミュニティバス」の潜在需要および実現の可能性を検討するために、「行政」「住民」「観光客」の3方面に調査を実施した。

## ○行政に対する調査

かつらぎ町役場へヒアリング調査を実施し、かつらぎ町のコミュニティバスの現状を調査した。

## ○住民への調査

コミュニティバスのバス停沿線の半径 150m 圏内の住民にアンケート調査およびヒアリング調査を実施した。アンケート調査に関して、99 世帯にポストイングし、33 世帯から回答を得た。

## ○観光客への調査

コミュニティバス周辺の観光地である高野山で観光客にアンケート調査およびヒアリング調査を実施した。アンケート調査に関して、120 人から回答を得た。

## 調査活動写真（※2）



調査活動成果	<p>「観光体験型コミュニティバス」の潜在需要および実現の可能性を検討するために、「行政」「住民」「観光客」の3方面に調査した。「観光体験型コミュニティバス」に関して調査した結果、住民の「観光体験型コミュニティバス」に対する需要は、大きくないことが分かった。コミュニティバスに対しては、現状維持を望む意見が多かった。一方、観光客の「観光体験型コミュニティバス」に対する需要は、大きいことが分かった。また、「観光体験型バスで、地域の観光地を観光周遊するバスに乗ってみたい」との声が多数あった。</p> <p>今回の調査では、新たな付加価値を提供するコミュニティバスの仕組みづくりに関して検討したが、住民と観光客の間で、回答結果に差が見られた。現行のコミュニティバスを全て、「観光型コミュニティバス」へと移行することは、現状、難しいと考えられる。一方、土日での試験運行など、期間を限定して、観光客と中山間地域の住民を結ぶコミュニティバスを運行することで、乗車人数の増加が見込まれれば、コロナを乗り越えて、コミュニティバスを中心に、地域の方と観光客がつながる社会の実現に向けて、本格的に「観光体験型コミュニティバス」を運行できる可能性があるのではないだろうか。</p>
--------	---

※1 必須ではありません。ある場合のみ記入してください。

※2 別途画像ファイルも合わせて提出してください。